

全国社会的課題委員会



全国大学生協連
学生委員会
学生委員長 加藤有希
編集者 戸張桜

24/02/23(金)

第1回全国社会的課題委員会

今回は…

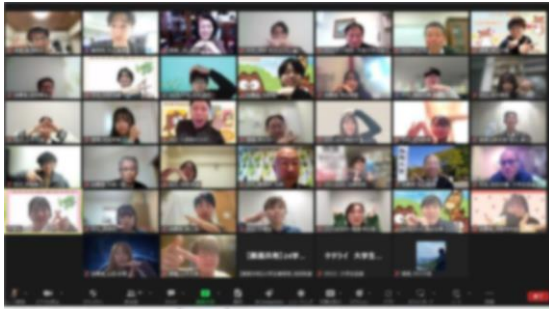
6/8 (土)

概要

名称：2024年度 第1回 全国社会的課題委員会
日程：2024年2月23日(日) 13:00～17:00
場所：オンライン開催(Zoom)

参加者(敬称略)

- 委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 副委員長：丸山智晴(群馬大学生協 専務理事)
- 生協職員：田中(宮城教育大学生協)、村瀬(東海BK)、吉山(中四事業連合専務)、鹿住(JUON NETWORK)
- ブロック学生事務局：三木(北海道BK)、伊藤、渡部(東北BK)、山田(東京BK)、池田、米田(関西北陸)、赤井(東海)、今川(九州BK)
- 階層別組織委員会：加藤、中野、戸張、吉村、瀬川、伊藤、寺山、久野、高須、出口(24年度全国学生委員)
- 教職員：朴(三重大学)
- 全国大学生協連：中森、藤江、田足井(理事会室)
- オブザーバー：高橋、鳥井、古橋、杉山、中丸、梅田、平間、上木(23年度全国学生委員会)、岸川、鳥居(東京BK)、大田(中国・四国BK)



00 分野にわかれて具体的に協議！

全国社会的課題委員会(以下、全社委)は「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、具体的に討議をしています。それぞれのチームでの協議の様子は以下の通りです。

a.環境チーム



環境

環境チームでは第1回目の顔合わせを行い、自己紹介やなぜ環境チームを選んだのかを話してもらいました。その後、大学生協の環境活動についての提起を行いながら、今年1年で環境活動を推進して行くことで、組合員の目指すべき姿や大学生協連として達成したい目標などの共有を行いました。

メンバーそれぞれには考えをイメージ・膨らませてもらいながら提起を聞いてもらい、今後は共有したビジョンを達成するために、今年度の推進テーマやそれに向けた具体化の議論を行っていきます！

b.平和・国際貢献チーム



平和・国際貢献

大学生協がなぜ”平和”を大切にするのか、また大学生協における”平和”とは何かについて簡単に学んだあと、平和・国際貢献チームで目指していきたいことを確認しました。また、チームメンバーの自己紹介を行い、これから一緒に頑張っていく仲間との顔合わせを行いました。

今後の動きとして、チームチャットでの交流やチーム会議の開催を通じて、平和・国際貢献に関する知識と理解を深め、社会で起きている事象について、議論していく予定です！

c.激甚災害支援・防災チーム



激甚災害
支援防災

初めに、大学生協における「激甚災害支援・防災」とは何か、激甚災害支援・防災チームはどのような位置づけなのかを確認しました。

更に、24年度の推進分野計画を参考に、各大学生協やブロックで取り組みたいことを考えました。

今後も、防災携帯カード「MottaCa」の推進や、「『ふくしま』スタディツアー」の学びづくりなどをこのチームで頑張っていきます！

d.消費者チーム



消費者

消費者分野の推進を通して、実現していく組合員の姿や全国として消費者被害防止とリスク講座に加え、消費者教育にも今年は力を入れていくことを共有しました。その後、消費者被害防止・消費者教育に向けて何ができるかを協議し、「どんな消費者リスクがあるのかを知る・紹介する」「投資にはリスクとリターンがあることを理解してもらえるようにしたい」といった意見がありました。また、5月の消費者月間にむけての取り組みも話し合いました。

今後は、私たちにできることを意見交流しあいながら、発信・普及につなげていく予定です！

01 能登半島地震について

大学生協連の対応と学生の訪問報告

2024年1月1日に起きた能登半島地震について、大学生協連生活協同組合連合会(以下、大学生協連)としての情報収集や会員生活協との連携などについて中森専務理事より報告がありました。また、各大学生協が実施した募金活動などの支援活動や被災地の状況について大学生協連が把握した情報を中心に、会員生活協に対して計6回の発信が行われました。

さらに、被災地に訪問した学生より、少しでも早く復興させようとする前向きに行動する人々の姿や現状を踏まえて考えたこと、今後の支援について共有がされました。

訪問して感じたこと・考えたこと

久野 (24年度 学生常勤)

- 完全修復していない状態で営業をしているスーパー、穴水町から金沢駅までつなぐバス、寒い中インフラの修復に取り掛かる作業員、県外から災害支援に向かう車など、**辛い状況でも何とか少しでも早く復興させようと前向きに行動する人々の姿**が見られた。
- 多くの組合員に被災地の実状を伝えた上で、そこで復興に一生懸命取り組む方々を元気づけられるような、後押しできるような行動をして欲しい。
- **組合員が実状を知ることで感じたことや伝えたい想いを、直接的にでも間接的にでも被災地の方々に届けたい。**

02 年間の社会的課題の推進について

24年度社会的課題委員会で力をいれていくこと

昨今は紛争や食品ロス、詐欺や地震など世界規模でさまざまな課題や問題が起こっています。大学生協は持続可能な社会の実現に向けて行動する必要があります。

社会情勢や大学生協として大切にしていきたいことを踏まえて、2024年度の社会的課題委員会のテーマは以下の2つになりました。このテーマを基に各階層別ブロックで何ができるか協議しました。

- **組合員とともに「社会的課題」の「解決」に向けて考え行動していきましょう**
- **「社会的課題×店舗」の取り組みを強めていきましょう**

社会的課題・社会で、自分たちに身近なところってどこだろう？と考えたとき、大学がある市区町村が身近だと思うから、うまく結びつけられそうだった。市役所で大学生向けの企画をやっていたりしたので、大学生協と重なる部分があると感じている。巻き込んで行けばより身近に社会に触れることができるのではないかなと思った。(学生)

24年度の社会的課題委員会 推進(テーマ)

組合員とともに「社会的課題」の「解決」に向けて考え行動していきましょう

- 社会的課題は課題解決だけでなく、繰り返さないことも重要になります。
- 私たちの生活と結び付けて、大学生として何ができるのか、組合員との交流(総(代)会や店舗活動など)ができる機会を利用して社会的活動を考え、行動していきましょう。

24年度の社会的課題委員会 推進(テーマ)

「社会的課題×店舗」の取り組みを強めていきましょう

- 大学生協の店舗は組合員にとって身近な場です。日常的な店舗利用から、組合員が社会に目を向ける工夫をしていきましょう。
- また身近な社会的活動の参加を促しましょう。

組合員に広く伝えていくのが大事。例えば、総代活動は総代活動としてちゃんと考えて成り立たせた上で、集まって学生生活をよくしようと話して、その中で社会的課題の学習会をできるのいいのかな。無理やり呼ぶ形ではなく、その人たちの立場に立ち返ってやって行けるといいな。(学生)

03 平和推進について

「なぜ私たちが平和活動を行うのか」

自分たちで決めるという民主的な運営との関連で考えられるといいよね。自分たちでは決められない生き方をしないとイケない時代があったが今はそうでない。大学生協もそういう歴史の積み重ねからできているのでそういう学習も大事。(職員)

戦争がない世界というよりは意思決定ができる民主的な社会。こういうのは総代会とかと関連するんじゃないかな。絡めて発信できたらいいのかな。(学生)

民主的な意思決定は大学生協が大事にしているところだから選挙とかいろんな視点で考えてみれるといいのかな。(学生)

大学生協が目指している組合員の「※より良き生活と平和」を基に、1年間を通じた平和活動の推進について考えました。また全国と各ブロック・各大学生協の接続を考える中で、全国社会的課題委員会の活用について議論をしました。

※1957年に大学生協運動の柱の1つとして「平和」が定められ、60年以上たった現在も大切にされています。

大学生協連が目指している平和推進について全国社会的課題委員会のメンバーとして何ができるか、そして自分の地域でどんなことができるかを考え共有することができました。

「よりよい平和推進」をこれからも考え続けよう!

つながる元気、ときめきキャンパス。

UNIV. CO-OP

大学生協が目指すものは

組合員の

より良き生活 と 平和

→1957年に大学生協運動の柱の1つとして「平和」が定められ60年以上たった現在も大切にされている

あなた自身が広げよう

知り・知らせ・考え・話し合い...

そして、あなたの行動が**誰かのきっかけ**になります

平和活動 そして

知り 知らせ 考え 話し合い 行動する

社会に生きる人間として

大学生協だけではなく

社会のいち構成員として

+ α 地域報告で報告された、注目する取り組みとポイント



環境

公立はこだて未来大学生協「食堂の廃棄を減らそう」

食堂での廃棄を減らすことを目的に、SDGsの12番目「つくる責任つかう責任」を意識した店舗運営となっており、食堂の混雑緩和のため、閉店10分前からフードロス削減のため、値下げして販売していました。店舗パートさんからは廃棄が減り、客数も増えていたという声がありました。組合員が日常生活で利用している食堂でSDGsに触れる機会にもなり、組合員の参加によって組合員自身が環境活動に取り組んでいるという実感を持つことができました。

東北大学生協「工場見学・取り組み報告」

昨年度にエコネット新里工場<肥料・飼料>リプラ<RPF固形燃料製造>生ハム工房<生ハム加工施設>の工場見学を行い、組合員がごみの分別リサイクルのしくみを知り、それらの環境問題に興味や関心を深めることができました。工場見学を通して、今起こっている環境問題が身近なものであると知ることができ、それを“自分事”として捉え、どのような行動をしていくかをポスターにまとめ、工場見学に行く前と行った後での変化や「これやります！」宣言を食堂ホールに掲示し、組合員に取り組みを周知することができました。

激甚災害支援・防災

三重大学生協など※「めった汁で応援」

三重大学生協では、食堂で石川県のご当地料理「めった汁」を提供し、1食につき20円を寄付につなげる取り組みを行っています。1日約100食を想定していますが、毎日ほぼ完売しています。

普段利用する身近な生協店舗で、いつもとは少し違うメニューを選ぶだけで災害支援に関わることができるので、組合員にとっては災害について考えて行動するきっかけになりやすいですね！

※この取り組みは東海ブロック全体で参考にされ、名古屋大学生協、静岡大学生協(浜松キャンパス)、名古屋工業大学生協、愛知教育大学生協などでも取り組まれています！

神戸大学生協「GI冬のフリマツリ」

神戸大学生協では、年末に組合員の必要無いものを集め、年始に安価で販売する「GI冬のフリマツリ」という、リサイクルとリデュースを啓発する取り組みが毎年行われていますが、今年は災害支援として収益が全額寄付されました。

必要無いものを提供してくれた組合員には購入時に使えるクーポンが配布されるなどの工夫により、当日の来場が274名と多くの組合員が災害支援に貢献できている点や、支援募金総額とその送金について【[大学生協のホームページ](#)】で組合員向けに報告されている点がポイントです◎

平和・国際貢献

近畿大学生協「Peace Now!クイズラリー」

近畿大学生協の3つの生協店舗（November・plum・leaf）にて、Hiroshima、Nagasaki、Okinawaの平和に関するクイズを作成し、Google Formを用いてクイズ形式で発信を行っていました。回答用の二次元コードだけでなく、平和に関する知識が載っているチラシも店舗に掲載していました。クイズに参加することで、店舗で利用可能なポイント獲得の抽選に参加することができます。SNSでの情報発信も駆使しており、多くの組合員の参加を促す工夫がなされていました。Peace Now!で得た学びを組合員が気軽に参加できる取り組みとして伝えることができていました。

広島大学生協「HEY!輪企画」

組合員に「平和」に関する事柄に興味を持ってもらうきっかけを提供するため、留学生を含む広島大学生や教職員を対象に、パレスチナ・ガザ地区への大規模空襲と地上侵攻後の取材を行ったドキュメンタリーDVDの鑑賞を行いました。世界の紛争と平和について一般的な認識を提供し、知識を深め、ガザの現状についても想いを馳せることができていました。他にもパレスチナ人学生、卒業生による講演も行われ、平和について深く考える機会になっていました。

消費者

横浜国立大学生協

「早期合格者向け入学準備説明会での中央労働金庫の提起」

早期合格者向けの入学準備説明会において、中央労働金庫（ろうきん）の方が消費者リスクについて提起し、動画での説明を行いました。

〈ポイント〉

東京ブロックでは、中央労働金庫と連携した消費者教育が活発になってきており、横浜国立大学生協の取り組みは新学期時期における新入生への消費者教育に関する事例でした。

自由が増える分、トラブルに巻き込まれるリスクも高まる大学生となる新入生への消費者教育は、今後注目したいポイントです。

立命館生協「エシカル消費ポスター」

大阪いばらきキャンパスの食堂「OIC Cafeteria」にて1月中、エシカル消費ポスターを掲示しました。エシカル消費に関する概要だけでなく、実際に立命館生協で実施されているエシカル消費として丼ペリ（リ・リパック）とウォーターサーバーの取り組みを掲載しました。

〈ポイント〉

身の回りの例をあげたり、リ・リパック弁当の販売やウォーターサーバー設置している食堂で掲示したりと、組合員がエシカル消費をイメージしやすいように工夫された事例でした。

「エシカル消費」は、社会をつくるわたしたちの消費行動として意識したい部分です。組合員にとって最も身近な店舗から広がっていきましょう！

つながる元気、ときめきキャンパス。



次回は…

6/8 (土)



政策討議を政策執行に繋げます